

4000年続くモンゴルカザフ族の鷹匠

江戸時代、徳川家康が好んで行った鷹狩、現在も正月のイベントで行われる鷹匠によるデモンストレーションなどがありますが、日常生活で目にすることはありません。

NHKテレビ、地球イチバンの番組で「地球最後のイーグルハンター/4000年続くモンゴル遊牧民カザフ族の鷹匠」(2015年1月29日)というのがありました。
4000年の歴史ってすごいですね！



カザフ民族というのは、そもそもからして、古い歴史と文化を持つ民族なのです。

そんなカザフ人がモンゴル国バヤンウルギー県に住んでいる。実は、モンゴル国内のあちこちに住んでいるのだが、バヤンウルギー県は、「ここは別の国か？」と錯覚するほど、カザフ人が沢山住んでいる。



バヤンウルギーとは、アルタイ山脈北麓のほぼ中央にある。ここは、4000m級の山々がそびえ、それらの頂は氷河や万年雪に覆われ、そこから流れ出す川は乾いた大地を縦横に走り、美しい湖を作り出す。どこを向いても、ため息が出るくらい美しい場所だ。伝説のシャンバラ王国はここにあったのだという人もいるくらいだ。

鷹狩りとはタカを使った毛皮猟をいい、鷹匠とはタカ使いを言うのだが、カザフではもっぱらイヌワシが使われる。広げた翼は2mに及ぶものもいて、かなり大きいのだが、騎乗して腕に載せて狩りに出かけるのだ。もっぱら狩りは獲物(キツネやウサギ)の毛皮が美しくなる冬に行われる。

世界最大の猛禽類「イヌワシ」を操り、地球最古4000年もの間「鷹狩」を続けるモンゴルの遊牧民、カザフ族。彼らは最低気温-20℃、突風が吹きすさぶ標高2000mの広漠とした岩山を騎馬で駆け回り、狐を見つけると鷹を放つ。

2010年にUNESCOの世界無形文化遺産に選ばれた「鷹匠文化」だが、カザフ族ではいま狩りに出ない鷹匠が増えてその文化は急速に廃れつつある。そんな中、4000年の歴史で初めて女性のイーグルハンターが去年誕生した。まだ13歳のアイ・ Cholpanさんだ。鷹匠の名手の家で育ち、伝統を引き継ぎたいと意気込むが、いまだ狩りを成功させたことはない。この冬、アイさんは一人前の鷹匠となれるのか。

番組では、勇ましいイヌワシの姿や獲物を狙う瞬間をハイスピードカメラや鳥の視点から迫り、荒涼としたアルタイ山脈の絶景や独特の暮らしぶりを高解像度カメラで撮影。多角的な映像美で臨場感たっぷりに描きながら、文明と伝統との狭間で生きる一人の少女とイヌワシの一冬を見つめる旅を放映し興味ある番組であった。

